

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

## ⑫ 公開実用新案公報(U) 平2-24123

⑬ Int. Cl.<sup>5</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成2年(1990)2月16日

F 16 C 17/10

A

8312-3 J

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全2頁)

⑮ 考案の名称 流体軸受装置

⑯ 実 願 昭63-102459

⑰ 出 願 昭63(1988)8月2日

⑱ 考 案 者 田 中 克 彦 神奈川県大和市櫻田7-4-7

⑲ 考 案 者 坂 谷 郁 紀 神奈川県藤沢市大鋸1-8-18

⑳ 出 願 人 日本精工株式会社 東京都品川区大崎1丁目6番3号

㉑ 代 理 人 弁理士 森 哲 也 外3名

## ㉒ 実用新案登録請求の範囲

支持部材の内径面の軸方向に離れた2箇所に形成されたラジアル軸受面と、このラジアル軸受面に対向する軸部材の外径面に形成されたラジアル受面との少なくとも一方にヘリングボーン状の動圧発生用の溝が設けられた流体軸受装置において、前記2箇所の各動圧発生用の溝は、動圧発生用の溝の荷重作用点を中心として軸方向内側における溝の長さが軸方向外側における溝の長さよりも長く、2箇所のラジアル軸受面とラジアル受面との間の半径方向すきまは、前記荷重作用点を含む動圧発生用の溝の軸方向外側の部分における半

径方向すきまが動圧発生用の溝の軸方向内側の端部における半径方向すきまよりも小さく設定されていることを特徴とする流体軸受装置。

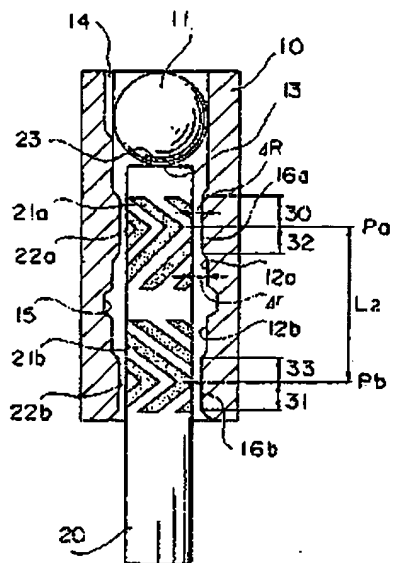
## 図面の簡単な説明

第1図は、この考案の実施例を示す縦断側面図、第2図は従来構成を適用した流体軸受装置を示す縦断側面図である。

図中、10は支持部材、12a、12bはラジアル軸受面、20は軸部材、21a、21bは動圧発生用の溝、22a、22bはラジアル受面、Pa、Pbは荷重作用点、 $\Delta R$ 、 $\Delta r$ は半径方向すきまである。

実開 平 2 - 2 4 1 2 3 ( 2 )

第 1 図



第 2 図

